

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、
広島大学関係報道機関



広島大学

NEWS RELEASE

広島大学広報室
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL : 082-424-3701 FAX : 082-424-6040
E-mail : koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和4年6月23日

記者説明会（6月30日10時・霞キャンパス）のご案内

てんかんの手術支援ロボット 広島大学病院が西日本で初めて導入 患者さんの負担を大幅軽減 感性科学にも応用

情報提供

広島大学病院は、難治性てんかんの診断・外科治療における新しい手法：定位的深部脳波検査(SEEG)を素早く正確に行える「てんかん手術支援ロボット」を導入しました。国内のてんかん外科では、全身麻酔下で開頭して頭蓋内に電極を留置していた従来法に SEEG 方式が加わりました。SEEG は、頭皮上から頭蓋骨に小さい穴を開けるだけで脳深部へ電極を挿入する方法です。このため患者さんへの負担が大幅に軽減できます。

また、脳科学分野での脳機能の解明やこころ・感性に関する研究にも応用が期待されています。説明後はロボットの実物をデモ公開いたします。導入は西日本初（全国3例目）です。ぜひご参加ください。

記

日時：6月30日（木）10：00～11：30

場所：広島大学病院臨床管理棟2F1 会議室（広島市南区霞1-2-3）

出席者：広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治 センター長

香川 幸太 診療講師

広島大学脳・こころ・感性科学研究センター

山脇 成人 特任教授

てんかんは、120人に一人の割合で発症する脳の慢性疾患です。適切な治療を受ければ7、8割は薬剤で発作をコントロールできます。しかし2、3割は薬剤の効かない難治性で、外科的療法が検討されます。

検査は、まず非侵襲的な脳波やMRI、PETなどで実施。それでも診断が難しい場合は頭蓋骨を開頭して電極留置を行っていましたが、感染のリスクがあり、回復にも時間がかかっていました。SEEGは開頭を要しないため利点がありますが、ロボットなしでは平均6時間近くかかり（ロボット下では2時間余り）、留置部位にも制限がありました。

支援ロボットの導入で患者さんの身体的な負担が減ることになります。欧米ですでにロボット導入が標準化しています。

【お問い合わせ先】

大学病院 特命広報・調査担当役（古市）

Tel : 082-257-5418

E-mail : byo-toku-chousa@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 2枚（本票含む）

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学 広報室 行

記者説明会（6月30日（木）10時・霞キャンパス）のご案内

てんかんの手術支援ロボット
広島大学病院が西日本で初めて導入
患者さんの負担を大幅軽減 感性科学にも応用

日 時：令和4年6月30日（木）10時～11時30分

場 所：広島大学霞キャンパス 臨床管理棟2F1 会議室

ご出席

ご欠席

出席者： 広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治 センター長
香川 幸太 診療講師
広島大学脳・こころ・感性科学研究センター
山脇 成人 特任教授

貴 社 名 _____

部 署 名 _____

ご 芳 名 _____ (計 名)

電 話 番 号 _____

誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、6月29日（水）15時
までにご連絡願います。